

急性呼吸窮迫症候群（急性呼吸促迫症候群）・肺水腫

英語名：ARDS（acute respiratory distress syndrome）、pulmonary edema

A.患者の皆様へ



ここで紹介している副作用は、まれなもので、必ずおこるものではありません。ただ、副作用は気づかずに放置していると重くなり健康に影響を及ぼすことがあるので、早めに「気づいて」対処することが大切です。そこで、安全な治療を行う上でも、本マニュアルを参考に、患者さんご自身、またはご家族に副作用の黄色信号として「副作用の初期症状」があることを知っていただき、気づいたら医師あるいは薬剤師に連絡して下さい。

肺に血液の液体成分が血管の外にしみ出してたまる病態では、動脈血液中に酸素が取り込みにくくなり、急な息切れや呼吸困難^{こきゅうこんなん}などが出現します。本病態には、急性左心不全、あるいは、「心原性肺水腫^{しんげんせいはいすいしゅ}」、さらに心臓とは関連性のない「急性呼吸窮迫症候群^{きゅうせいこきゅうきゅうはくしょうこうぐん}」があります。これらの病態は、医薬品の服用によっても起こる場合があります。医薬品の投与後に、急に、次のような症状がみられた場合には、直ちに医師・薬剤師に連絡して下さい。

「息が苦しい」、「胸がゼーゼーする」、「咳・痰^{せき たん}がでる」、「呼吸がはやくなる」、「脈がはやくなる」

A . 患者の皆様へ

ここでご紹介している副作用は、まれなもので、必ず起こるものではありません。ただ、副作用は気づかずに放置していると重くなり健康に影響を及ぼすことがあるので、早めに「気づいて」対処することが大切です。そこで、より安全な治療を行う上でも、本マニュアルを参考に、患者さんご自身、またはご家族に副作用の黄色信号として「副作用の初期症状」があることを知っていただき、気づいたら医師あるいは薬剤師に連絡してください。

1 . ^{はいすいしゅ}肺水腫とは？

^{はいすいしゅ}肺水腫とは、肺で血液の液体成分が血管の外へ滲み出した状態をいいます。肺に液体成分がたまるため肺から酸素を取り込むことができづらくなり呼吸が苦しくなります。

一般的に臨床でよくみられる^{はいすいしゅ}肺水腫は、大きく、2つあります。1つは、心臓弁膜症や心筋梗塞など、心臓の病気が原因となって起こるもので、一般に、急性左心不全、あるいは、^{しんげんせいはいすいしゅ}心原性肺水腫と呼ばれています。もう1つは、^{きゅうせいこきゅう}急性呼吸窮迫(促迫)症候群(ARDS)と呼ばれている肺水腫です。

薬剤による心原性肺水腫は、心臓の機能を低下させたり、心筋の障害を起こす薬剤で見られます。一方、ARDSは、抗がん薬、抗リウマチ薬、血液製剤などでみられ、輸血でも生じることがあります。

また、薬剤に関係する特殊なものとして、^{もうさいけっかんろうしゅつしょうこうぐん}毛細血管漏出症候群(capillary leak syndrome)に伴う肺水腫があります。

ARDSや^{ひしんげんせいはいすいしゅ}毛細血管漏出症候群は、非心原性肺水腫と呼ばれることがあります。

早期発見と早期対応のポイント

医薬品の投与後に、急に、「息が苦しい」、「胸がゼーゼーする」、「^{せき たん}咳・痰がで

る」、「呼吸がはやくなる」、「脈がはやくなる」などの症状に気づかれた場合は、服薬等を中止して担当医師に連絡をとり、すみやかに病院を受診して下さい。

左心不全による肺水腫では、特に、横になると息苦しいため起き上がって座位を取ったり（起座呼吸）、夜中に突然息苦しくて目が覚めたり（発作性夜間呼吸困難）、ピンク色（薄い血液の色）の泡状の痰（泡沫痰）が出ます。

2. 急性呼吸窮迫症候群（急性呼吸促迫症候群）(ARDS)とは？

敗血症（血液中に細菌などが入って増殖する状態）や肺炎などの経過中や、誤嚥（食べ物などを飲み込む時に誤って気道に入ってしまうこと）や多発外傷（体の複数の箇所に損傷を受けた状態）などの後に、急に息切れや呼吸困難が出現し、胸部のX線写真で左右の肺に影（浸潤影）がみられる病態を言います。動脈血液中の酸素分圧（PaO₂）が低下し（低酸素血症）、その程度に応じて、軽症・中等症・重症ARDSと呼ばれます¹⁾。

注) 同じような状態を示す病態に左心不全があり、しばしば判別（鑑別）が困難なこともあります。病態の発生メカニズムは全く異なります。明らかに心原性である場合には、心原性肺水腫と考えます。

ARDS の場合の低酸素血症に対しては、酸素吸入だけでは改善は不十分で、人工呼吸器の装着を余儀なくされることも多く、予後の悪い病態です。

医薬品が関係するARDSには、抗がん薬、抗リウマチ薬などによるもの、また、血液製剤によるものがあります。

ARDSの病態を呈するもの以外に、毛細血管漏出症候群、循環血液量過多症、アナフィラキシーなどによる肺水腫があります²⁾。

早期発見と早期対応のポイント

「息が苦しい」、「咳・痰^{せき たん}がでる」、「呼吸がはやくなる」、「脈がはやくなる」

症状があり、医薬品を服用・使用している場合には、服薬等を中止して担当医師または薬剤師に連絡をとり、ただちに受診してください。

また、輸血中もしくは輸血後数時間以内に上記と同様の症状を認めた場合にも、すみやかに医師または看護師に連絡してください。



医薬品の販売名、添付文書の内容等を知りたい時は、このホームページにリンクしている独立行政法人医薬品医療機器総合機構の「医療用医薬品 情報検索」から確認することができます。

<https://www.pmda.go.jp/PmdaSearch/iyakuSearch/>

独立行政法人医薬品医療機器総合機構法に基づく公的制度として、医薬品を適正に使用したにもかかわらず発生した副作用により入院治療が必要な程度の疾病等の健康被害について、医療費、医療手当、障害年金、遺族年金などの救済給付が行われる医薬品副作用被害救済制度があります。

(お問い合わせ先)

独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 救済制度相談窓口

https://www.pmda.go.jp/kenkouhigai_camp/index.html

電話：0120 - 149 - 931 (フリーダイヤル) [月～金] 9時～17時 (祝日・年末年始を除く)